

## 第2回 神戸2025ビジョン策定に向けたワーキンググループ

### －議事要旨－

日時：令和2年9月2日（水）14:00～16:00

場所：三宮研修センター会議室 7階701号室

議論テーマ：「誰もが活躍するまち」

#### <出席者>

委員：

氏名	役職
澤田 有希子	関西学院大学人間福祉学部 准教授
竹村 匡正	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 教授
永野 敦子	神戸労働者福祉協議会 委員
林 英樹	林英樹司法書士事務所 司法書士 東灘区カネボウアーバン自治会 会長
山田 基靖	学校法人摺河学園 学園長

(敬称略、五十音順)

#### <配布資料>

- ◆ 議事次第
- ◆ 資料1：神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート調査結果からの示唆
- ◆ 資料2：神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート結果（抜粋）
- ◆ 資料3：神戸2025ビジョン全体構成（案）
- ◆ 資料4：施策検討状況

## 1. 2025 ビジョン策定に向けた各アンケート結果報告

### <事務局>

－資料1、2に基づき説明－

## 2. 質疑応答及び意見

### <委員>

- ・39歳までに絞ってアンケートを取られているのはどういう意図か

### <事務局>

- ・当初の設定として、若者を40歳未満に絞っているためである。

### <委員>

- ・誰もが活躍するまち、「誰もが」というところには若者以外も入ると思うが。

### <事務局>

- ・もちろんそのとおりである。そこに対してのアンケートはできていない。

### <委員>

- ・これには相関というか、施策に関係するかもしれないが、地元に残りたい方は公務員とか医療施設であるというように、アンケートの中にストーリーがあると思うので同じアンケートでも相関が出てくるのではないか。
- ・統計的にこのパターンの人はこちらというものがあると思うが、これはここから更に分析できそうなものはあるのか。

### <事務局>

- ・行政データを活用する取組ができるようになってきており、それを見ると人口移動についてかなり特色があることがわかる。
- ・例えば、若者単身世帯は神戸市からは転出超過である。転出する場所は西区、北区からであり、ストーリーとしては西区、北区は生活コストも若干安くファミリー層に望まれているが、就職してちょっとお金が溜まった時点で外へ出て行っている。出ていく先は明石市、尼崎市など交通利便性が高く、生活コストが安いところである。神戸市内であれば長田区、兵庫区など生活コストはそんなにかからないが交通の利便性が良いところに移動される傾向にあるということが分かっている。
- ・夫婦子育て世帯は第1子が小学校に入る前に移動されており、子どものイベントに合わせて動かれている。生まれた時が一番移動が激しく、6歳の小学校入学までに移動が終わり、それ以降は少ない数のファミリーしか動かない。

- ・ 0～4歳が転出超過、5～9歳は転出入が均衡している。

#### <委員>

- ・ その話は、アンケートの結果と一致するか。

#### <事務局>

- ・ その紐付けはない。

#### <委員>

- ・ その分析ができれば中にストーリーがあるように思う。

#### <事務局>

- ・ そういった意味では、このアンケートをクロス集計することが可能なので、大学生で神戸市内を希望される方の職種はどういったものが多いか見ることはできる。

#### <委員>

- ・ 企業に就職をしてしまうと実際は神戸にいたくても東京、大阪に行かされるようなことがある。その相関を統計分析すれば面白いのではないか。

#### <委員>

- ・ 私自身が神戸市に住んでいる人間ではなかったので気になるというか、このデータだけではわからないことなのだが、「将来神戸市に戻りたいか」というのを、もともと神戸出身の人か、一時的な転勤で来ている人に聞いているのかで違ってくると思われる。それは施策を考えるときにも関係すると思っており、誰がどう感じたのかがわかると政策を読むときにも少しわかることがあるのではないか。転出者を見た時にも、もともとここで就職したいと考えているか、違う大学から来た人かで変わってくると思われる。アンケートの取り方もあるので、そこまでのクロスは難しいかもしれない。対象者を転出者、転入者とひとくくりにするとそれが反映しづらいのではないかと感じる。

#### <事務局>

- ・ 午前中の委員からそういった研究もされていて、神戸になんらかの関係性のある人は、関係性のない人に比べると神戸に住む確率がかなり上がるということで、下宿というのを切り口にして、大学生にお試しで住んでもらうという施策を考えてはどうかというアドバイスをいただいた。

### 3. 神戸 2025 ビジョンに盛り込むべき施策について

#### <事務局>

－資料 3、4 に基づき説明－

### 4. 質疑応答及び意見

#### <委員>

- ・⑤の 7 番に「LGBTQ に対する適応、優遇措置」とあるが、神戸市には条例もないので、是非取り組むべきとは思いますが、ここに書かれている「優遇措置」とはどのようなことか。

#### <事務局>

- ・アドバイザーの先生からお話いただいた。近年 LGBTQ 方々に対する支援措置が各自治体で色々行われており、市営住宅への入居の取扱とかを行っている都市もあるので、そういったことを勉強しながら検討していく段階である。

#### <委員>

- ・パートナーシップ制度に関する要綱を作るとか、そういった動きはあるのか。

#### <事務局>

- ・今のところ国の法制化を待っている状況であり、神戸市の方から積極的に先行してということはない。

#### <委員>

- ・「優遇措置」はわからないが「LGBTQ に対する適応」を施策として書くのであれば、おそらくパートナーシップ制度くらいは検討しないと、他の進んでいる自治体に比べて見劣りする。日本全体の法律の議論は当然あるが、法的に同性婚が認められるかというのは国の制度であるが、それに先立ってパートナーシップ制度などを地方自治体がやろうという動きがあると思う。なぜこだわるかということ、外国人材、多文化共生というところに神戸市が重きを置くのであれば、余計に重要なポイントだと思っている。諸外国から厳しい目で見られていることの一つが LGBTQ の扱いで、外国人ウェルカムと言っておいて、男性カップル、女性カップルが来た時に制度は何もありませんというのはどうか。謡うのであれば何かパートナーシップ制度を含めて検討しないと KPI も考えられないと思う。
- ・別件で①1 「高度外国人材の調査・発掘・開拓」に関して。東欧を対象としているのは何かターゲットがあるのか。

### <事務局>

- ・ IT 分野の人材が豊富であると聞いているのでそういう意味合いかと思われる。
- ・ リトアニアとか、親日的で IT 人材が優秀な方が多いので誘致対象となる可能性があるのではないか。

### <委員>

- ・ ①の「魅力的な仕事の創出と多様な人材の確保」でアンケートを見させていただくと、「神戸市で就きたい仕事がないから」という回答に関わってくることとおもっており、魅力的な仕事の創出は重要だと思う。時事ネタで恐縮だが、パソナが淡路島に本社機能を移すという話は結構インパクトがある。施策として「外国人」「先端技術」「スタートアップ」そして次に「中小企業への支援」があるが、「東京への進出を望む」と書かれているが、パソナのような東京からの本社機能の誘致の話を施策に入れるのは難しいのか。

### <事務局>

- ・ 難しくはない。既にやっているものもある。

### <委員>

- ・ 中小企業の東京進出の支援に触れるのであれば、誘致にも触れたほうが良いのではないか。パソナはそのくらいインパクトがあった。

### <事務局>

- ・ 本社機能の移転の補助制度については県と市で一緒になって補助金も出しており、何か実績もある。このコロナの流れでパソナのような企業が出てくる可能性もあるのでしっかりと注視していきたいと思っている。

### <委員>

- ・ 前回、NPO 法人がお金がなくて活動が促進できていないという話があったと思うが、NPO 法人の支援も項目に合っても面白いのではないか。
- ・ 神戸市の NPO 法人は内閣府のサイトで検索すると 900 法人くらいある、そのうち認定を受けているのは 20 数法人で数パーセントしか認定を受けていない。認定を受けているかどうかと収益構造が整っているかは別のことだが、一定の給付金を募れているというので認定を受けているので、それを鑑みると稼働できていない NPO 法人が圧倒的に多いということだと思われる。その時に補助金、助成金を活用するというよりも、NPO 法人としての収益、ファンドレイジングを伸ばしていくということで、神戸市の施策にあった法人の成長に寄り添うのではないけれども支援することで、NPO

法人で働きたい若者、シニア雇用の創出につながり、新しい雇用の形というか、営利企業だけではなく非営利活動の中でもしっかり生活ができながら、社会貢献して働くという形があれば面白いのではないか。

- ・ファンドレイジングの能力がない法人、そこがなかなか機能していない法人が多い印象がある。

#### <事務局>

- ・認定 NPO 法人については、ふるさと納税の対象として寄付を受けている。
- ・NPO 法人の運営等についての相談窓口を3カ所設けている。そこで自ら稼ぐ力についてサポートしている。

#### <委員>

- ・ふるさと納税をどう NPO 法人に絡めることになるのか。

#### <事務局>

- ・神戸市にふるさと納税をしていただくと、使途として NPO が選べるようになっている。

#### <委員>

- ・NPO 法人で様々な寄付の募り方がある。良い例として、学生支援の D×P という NPO 法人がある。月額寄付をすると、生活困窮で悩んでいる学生に対して相談員を付けられるなど、寄付が何に使われるか明確に示しながら寄付を募られていて、月額寄付会員が約千人まで増えている。
- ・普通のところでは、こういった活動をするのでと法人賛助会員（3千円/年）などを募っていても使途は不明確である。そういったものを双方手助けできる仕組み、講師派遣ではないが、マネジメントできる方を神戸市として派遣するようなことをしてはどうか。

#### <委員>

- ・IT で柱が立つということはできないのか。IT に限らないが、ベンチャーが立ちやすいのは、大学と公共でそこは税を使うからコンスタントに仕事が降ってくるのでそれにぶら下されるとよい。
- ・京都にも IT ベンチャーがあるが、最初は京大の事務の仕事をしていた。そこでコンスタントにお金を得ていた。仕事を振ることができれば動ける人は多い。
- ・大きい企業でやると一社の中で完結してしまう。そこへ地元のベンチャーを入れてくださいと言えばそこから育つ人もある。

- ・市や公的な施設がうまく仕事をベンチャーやNPOなどへ投げられると、そこへお金が回って育っていく。ベンチャーなどは仕事の質が低いのが怖いところだが、そこは有識者や大きな会社がキープすれば回るようになるのではないか。仕事があれば人が集まってくる。
- ・神戸市の仕事を振ってあげればよい。基幹システムは大企業に丸投げのイメージで、市長がそうしているようなイメージである。

#### <事務局>

- ・市長がそうしているわけではないと思うが、市民病院の電子化のような何十億もかかるような基幹システムなどはやはり責任を取ってくれる大きな会社でないと、ということはある。

#### <委員>

- ・調達要件にベンチャーを入れるということを入れると、強制的に回るのではないか。

#### <事務局>

- ・大きな工事等では、地元の工事業者を使えということになっていて、JVなどを組んでもらってそこへ出すということが進んでいる。ITではそういったことが全く進んでいない。
- ・先ほど言われたようにIBMがベンチャーを使ってというのがあれば問題ない。最後大きな企業が責任を取ってくれたら成り立つ。

#### <委員>

- ・④の9番と⑦の5番の「地域団体向けの電子申請の仕組みを検討」とはどういうことか。

#### <事務局>

- ・地域団体向けの電子申請の仕組みというのは、地域団体補助制度については、事務負担軽減の意見とともに、コロナ感染症拡大防止による外出自粛要請などにともない、電子申請が可能な環境を整備する必要性が高まっているということ。
- ・今後、国の電子申請にかかる法整備なども注視しつつ、中期的な実施を見据えて具体的な取組を検討していきたいということであがってきている。

#### <委員>

- ・地域団体とは自治会やPTAのことか。
- ・地域団体は高齢の会長さんなども多いので、この辺の仕組みができて利用できない

シニアの方は多いのではないかと。そういったことも絡めて、シニアの方が Zoom や LINE 電話を使うことの支援が進むと、オンラインを活用して、身体は動かないけれど地域活動に参加できる、ということになれば新しいコミュニティ形成になる。

- ・そうすると、この電子申請の普及にも影響するし、シニア防災にもつながるし、オンラインでの安否確認などもとりやすくなる。これはオンライン診療にも連動してくるのではないかと。

#### <事務局>

- ・地域活動にオンラインを導入すれば、若い世代が地域活動に参画するきっかけになるという考えもあるので、そういった取組も進められればと思う。

#### <委員>

- ・「認知症に優しいまちづくり」といったことは実際事業として進まれているので、ビジョンとして入れないのか。今とても力を入れているのに入っていないのはもったいないのではないかと。
- ・今年9月で1年ということで、ビジョンとして5年先ということではまだまだこれからということ。

#### <委員>

- ・私もそれを思っていた。神戸市は独自のモデルも作っておられるので入れた方がよい。若者へのアプローチを意識しているのかと思っていたが、アピールとして出していくべきことだと思う。
- ・あと、柱③では「結婚・出産・子育て」とあるが、若い世代でも「結婚・出産・子育て」に「介護」も入ってきている。認知層もそうだが、介護への支援も入れた方が「長く住んでいけるまち」のイメージになる。

#### <事務局>

- ・午前中に、「ずっと住めるまち」というのをキーワードとして言われてはどうかという意見をいただいた。

#### <委員>

- ・親も一緒に来られるというのは、移住するインセンティブになるのではないかと。

#### <委員>

- ・親のところに子が戻ってくるだけでなく、子世代が親を連れてくる視点もある。それくらい充実した仕組みがある。



### <委員>

- ・核家族化から、昔のような三世同居世帯が増えれば地域コミュニティの活性化にもつながる。

### <委員>

- ・②の 11 番「首都圏と神戸市の生活コストの違いを分かりやすく発信」というのがあるが、生活コストの違いについては、姫路市が東京海上に 80 歳までの生涯年収を算出させているものがある。3 千万円以上変わってくる。
- ・神戸市なら高齢者向けの対策がこれだけ充実していて、首都圏では介護施設がとても高いので、神戸市に連れてきていただいたらこれだけ環境豊かで、ご両親にも満足していただけるというようなものがあるとよい。
- ・ただ、神戸に住んでみて、首都圏とどこまでコストが違うか、正直よく分からない。姫路は圧倒的だった。どのレベルの生活コストを比較するかは気を付けて発信した方がよい。一つ間違えると、どうせこの程度の違いしかないのであれば仕事が魅力な東京に行くということにもなりかねない。これだけ違うというインパクトがないといけない。東京と同じような生活をしようとすると、東京と変わらない。
- ・資金調達の関係でやった方がよいと思う施策がある。神戸市では市債を 800 億円程度発行しているが、ここにサステナビリティ債（サステナビリティ・ボンド）を検討されたら良い。これは神戸の強みを活かした SDGs の達成にもつながる。市で発行するボンドはサステナビリティ債を採用しているというのは金融市場にインパクトがありお金が集まりやすい。ESG 投資であり、安定的な資金調達が可能。去年までの資料を拝見させていただいたがサステナビリティ債にはなっていなかったのご検討されてはどうか。

### <事務局>

- ・生活コストについては、神戸市も中央区や東灘区は結構土地も高く、生活コストはかかってくる。区ごとに出すかなど出し方は気をつけたい。

### <委員>

- ・兵庫県で出すのと神戸市で出すのでもとても違うと思う。神戸市を神戸市外の人にアピールする際、コストがそこまで違うのかという感じはある。

### <事務局>

- ・生活コストが高いということで、明石市に転出されることも多いので、そういったことも気にしながら PR していかないといけないと思っている。

### <委員>

- ・大阪のベッドタウンとしての神戸と、仕事をする場としての神戸の区分けはどう考えるか。

### <事務局>

- ・市全体の考え方としては、ベッドタウンではなく拠点都市。ビジネスとか生活の全て神戸市を中心にするという考え。東灘区や灘区では結構大阪で働かれています方が多いと思うが、ベッドタウンではなく、拠点として神戸市が成立するような施策を打っていきたい。

### <委員>

- ・その時に、住みたいと働きたいは必ずしも一致しないのではないかと。サンフランシスコではシリコンバレーに通うのはバスで通う。サンフランシスコ市内でグーグルのバスが止まる周りは、土地とマンション価格が上昇した。例えば、神戸でも西区に大阪市内への直通バスを作れば、そこに住みたい人は一定数いるのではないかと。
- ・地方の国立大学で聞くと、県庁所在地で暮らすのが、東京、大阪に住むより良いという話は聞く。ただ、それは仕事があれば幸せ。病院や県庁、市役所で働いている一部の人がその幸せを享受している。
- ・神戸で仕事があって職住接近は便利だが、段階として、既に大阪に通っている人が一定数いるのであれば、そこは分けて考えても良いかもしれない。
- ・あと、この施策は一つ一つやっていくのか。健康づくりでも健康のためだけに動いてくれる人はいないので、結果として神戸に居れば健康になるというような世界を作ろうと思うと、うまく人が流動する仕組みにするためには、健康と観光を施策横断的にしていけないといけない。

### <事務局>

- ・施策事業はこのような形で整理しているが、PRしていくとき一塊にして届けたい人に届けるという形になる。午前中の議論で、PRが弱いという話が出た。
- ・政令市でありいろんなことをやりすぎていることもあるので、メッセージ性が弱まっているのではないかとということもある。

### <委員>

- ・SDGsを柱に据えられているので検討されているかもしれないが、先日、兵庫県では明石市が一番最初に選ばれてしまったが、内閣官房が募集しているSDGs未来都市に選ばれれば、3,000万+取りやすい地方交付税があるので、申請するに越したことは

無い。

#### <事務局>

- ・SDGs 未来都市については検討も進めている。

#### <委員>

- ・三宮からポートアイランドまで自転車で通っているが、みなとのもり公園から歩道だけで行ける。「阪神しまなみ海道」として芦屋のあたりから始まってゴールが神戸空港になるものが、自転車乗りの間では有名で雑誌に出ていたりするが、本家のしまなみ海道に比べて整備の問題があり、案内もない。
- ・シェアサイクルとかもあるし、これは健康にも繋がるので、市内の自転車ルート整備を進めてはどうか。坂があるので電動自転車を普及させるとか、売りになることが一つあるといろいろなことが繋がっていくのではないか。
- ・小豆島の「マメイチ」、淡路島の「アワイチ」と言って島を自転車で一周するものがある。三宮の駅からフェリー乗り場までの自転車での行き方がわかないというのがいろんな SNS で出ていたりする。
- ・細かいことにも魅力がありメッカにしていくことができるのではないか。ポートアイランド内をロードバイクで走られている方もいるので、遠くから来られていることもあるようである。

#### <事務局>

- ・with コロナで自転車も注目を集めているので、自転車の施策には力を入れていきたいと考えている。

#### <委員>

- ・山の方にもう一つできた「BE KOBE」は自転車ロードのところである。

#### <委員>

- ・これは区レベルで施策を打つ話になると思うが、自転車の利用が進むと、駐輪問題がどうしても発生するので、そこは連動して事業として絡めていただきたい。

#### <委員>

- ・シェアサイクル会員数というのは④の6番、⑥の5番に「自転車の利活用促進」というのがあがるが、神戸市としてシェアサイクルのステーションを作るといったことをされているのか。

### <事務局>

- ・NTT ドコモと組んで「コベリン」というシェアサイクルサービスをやっている。
- ・一日 500 件くらい。
- ・会員数 6～10 万人という KPI が建設局から出ている。

### <委員>

- ・Uber Eats が流行りだして、あれに乗って配達する人も増えている。

### <事務局>

- ・カード決済もでき、来訪者、旅行者にも非常に人気がある。

### <委員>

- ・東灘、灘、中央区辺りでは、マンションコミュニティの活性化は区レベルで政策課題の大きなテーマになっているが、それを打ち出すとこれからマンションに住む人も増えるので住みやすいまちのイメージにもなるのではないか。
- ・自治会に加入していないマンションも増えてきているので、管理組合とどうつながっていくかはキーになる。

### <委員>

- ・②の 11 番の生活コストの比較について言い忘れていた。姫路市のパンフレットを東京の友人などに見てもらった感想として、みんなから「そこでなんの仕事ができるのか」と必ず聞かれた。どんな人を集めたいかという議論にも直結するが、Living コストの話だけをしても効果がない。
- ・クオリティを全面に書いた上でコストを発信しないといけない。コストだけであれば全国にもっと安く住める場所はいくらでもある。神戸はクオリティがここまで高いということがセットで言えるからの発信である。

### <事務局>

- ・仕事の部分が一番考えなくてはいけないところだと思う。
- ・午前中にも出たが、神戸は生活するところと自然が隣接しているそういった魅力をトータルパッケージで、その中に仕事も含める。

### <委員>

- ・その意味で先ほど委員の言われたレイヤーを分けるというのは大事だと思う。仕事だけではなく、住む環境としての良さは、大阪への便利さのアピールの部分と、仕事もおもしろいことがあるということ。住んでも良い、働いても良い、というレイヤーを

分けたメッセージを出すことは、外の人へのアピールとしては必要。全部を神戸でという市長の思いも分かるが。

#### <委員>

- ・一部の大企業では転勤をやめようという話が出てきている。コロナでテレワークが機能しているので、そこまで毎日行く必要があるのかということ在全社で考えている。営業に行かなければいけなければ地方に行くが、それでも住まいをやめて地方ではホテル滞在をすとしたときに、それで全体のコストが下がるかを検討したらそれでも行けそうな感じがあるらしい。
- ・一方、家ですべて仕事ができるかと言うとそれは違う。支社には出るなど言われていて、三宮にお客さんと会うためのスペースがあるので、結局、そこに出ている。そうすると、先ほどのコワーキングスペースというのが効いてくる。次の働き方は、家ではないけれども、ある程度集まって全社の話をするようなことになるかもしれない。
- ・三宮の次の開発でも、安いコワーキングスペースを入れるとか、新しい契約の仕組みを作っておくなどでも流れができていくかもしれない。

#### <事務局>

- ・コワーキングスペースの話は午前中も盛り上がった。地下鉄沿線で駅の近くにコワーキングスペースを設けて、③の10番の「親子連れで利用できるテレワーク環境の整備」といったものと合わせて仕事をする人の隣で子どもを見られるようなスペースを作って一緒に課題を解決できないかという意見もあった。

#### <委員>

- ・家でテレワークは子どもがいたらできない。都内のホテルが今コワーキングスペースとして人気。家では個室もなく仕事ができないのということで都内のホテルをデユースで解放したところ需要があった。
- ・出てくるなど言われても、家の中では仕事ができないという現実も感じているので、そこへ、市がコワーキングスペースを整備すれば、この市は住みやすい、働きやすいというアピールが、本社が神戸市になくてもできるのではないか。

#### <事務局>

- ・神戸市はどこも、空き地、空き家が増えていることが問題になっており、その辺をこういった課題同士をくっ付けることで解決ができないかという検討を進めている。

#### <委員>

- ・このビジョンの中で「暮らしやすさ」について取り上げられているものがすごく限られている。
- ・アンケートの中で必要な取組として聞いているものに「保育所の整備」や「待機児童対策」「育児手当の高額化」とかがある。現状神戸市として国レベルとは違うこういった手当をされているかは調べていないのでわからないが、こういうところを魅力にして若い子育て世代に来てもらおうというのであれば、それを打ち出すことができないか。
- ・病児保育事業は検討中となっているが、これが充実している自治体は少ない。実際、大学で教えだしたときに赤ちゃんを抱えていて、熱を出したときに授業に穴が空けられなくてお世話になった。その時は滋賀県の田舎の方だったため、市では2人しか病児保育が受入れられなかった。宝塚市に移住したら宝塚市は全然人口規模が違うのにそれでも3人とかで枠が小さかった。子どもが病気の時は休めるのが一番いいが、そうはいかない場合もあるので、そういう意味では、働く女性のジェンダー平等の観点からもそういう支援ができていないことは重要であるし、魅力となると思う。この点についてもう少し書けないか。
- ・明石市では子どもの医療費無料という話が、インパクトがあって、明石に住むインセンティブになったという話を聞く。神戸市もかなり近いレベルにはなっているが、これを無料にできないか。そうすれば神戸がいいという話題に上るくらい印象に残るのではないか。

### <事務局>

- ・女性が働き続けられる環境は整備していかなければならない。
- ・調査をするとL字カーブというのが言われていて、正規雇用で働き続けられるようにということ。子どもが生まれて正規職員を辞められると、復帰するときは、パート・アルバイトとなるが、神戸市は京都市と比べるとL字がいびつで、京都市はM字カーブもなくなってきているので、どのような施策を打っているか勉強していきたい。

### <委員>

- ・今の話は子育て世代には響くし、考えさせられる。予算措置ができないのであれば、先ほどの市債ではないが、グリーンボンドやサステナビリティ債が流行ってきていて、日本でもようやく概念ができてきたが、ソーシャルボンドは日本ではゼロである。ソーシャルボンドの世界で、医療や安全面で神戸市が市債を発行したらすごく面白い。「住みやすさ」「安心・安全」「社会保障」的な観点で、神戸市の抱えている社会課題に金融という切り口で取り組むというのは、インパクトがあるのではないか。

### <事務局>

- ・神戸市では、糖尿病予防の関係でソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）を発行したことがある。コロナからの復興ということでもそういう発想はあるかも知れない。

#### <委員>

- ・コロナ債という言葉もある。

#### <委員>

- ・このビジョンを中心に個別の計画が動いていくと思うのだが、個別計画との連動・整合を考えないといけない。個別計画の目玉はビジョンにも盛り込まれていないといけない。
- ・オープンスペース政策で三宮でも作られているが、神戸の魅力としての景観に加えて、休憩できる場所というのを進めていくというのもビジョンに入っているとそこの連動性もあり筋が通るのではないか。
- ・先ほどの「認知症にやさしいまちづくり」などは福祉計画と連動しやすいので、その辺の補完関係になるビジョンが足りないというか、連動性が取れていない部分があるのではないか。

#### <事務局>

- ・部門計画は国から作れと言われるものもあるし、神戸市独自のものは極力減らす方針である。福祉計画などは国から作れと言われているもので、そういった部門計画との連動は考えていかなければならない。
- ・50以上の部門計画があるので、それがどうぶら下がるかチェックは必要である。
- ・コロナの後でオープンスペースが見直されようとしている。

#### <委員>

- ・アンケートにもあったが「若者が選ぶまち」というのはどのようなまちか。具体的に何かあるか。

#### <事務局>

- ・あるべき姿がどのような状態かについては議論をしている。人口の動態などを調べていると、若者単身世帯が転出超過になっている、子育て世帯が転出超過になっているということから、その若い世代の転出超過を解消していきたいということが目標である。

#### <委員>

- ・最近の若者はキャンプ、山に行ったりしているが神戸・兵庫県はバーベキューができ

ることが少ないという話を聞く。川沿い、海沿いでは軒並みダメという。また、須磨はあるが、ポーアイなどは全て護岸になっており砂浜がない。自分たちの世代はハーバーランドで良いという価値観だった。そういった価値観の変遷はあるかもしれない。

### <事務局>

- ・三木市のネスタ神戸などは、広報戦略を変えてから人を集めている。ファミリー層に受けている。
- ・子育て世代については、明石の医療費無料をよく聞くので、財政的な負担がそんなに大きくならないのであれば、検討したいと思う。

### <事務局>

- ・神戸新聞には神戸と明石のPR合戦という記事が出た。明石市も三宮の真ん中にポスターを掲げたりしている。
- ・共働きの世帯で、子どもが生まれて会社を辞めるとかなり所得が減ることもあり、そういった世帯が、生活コスト+子育て支援の手厚い明石市などに行ってしまうというストーリーの成り立つようなデータがある。

### <委員>

- ・子育て支援と子どもがいる世帯に住宅補助があるとか。
- ・滋賀に居た時に、栗東市は競馬の関係で税収が高く、子育て支援が充実していた。若い世代には金銭的な部分の補助があることはインセンティブになる。

### <委員>

- ・ビジョンのテーマとして「若者が選ぶまち」とされているのであれば、この施策を見ても「若者が選ぶまち」が中心になっていないような気がしている。もし、「若者が選ぶまち」を本当に大きく書くのであれば、そういう施策をひとくくりしておくの良いのではないか。
- ・もう一つ、「若者が選ぶまち」と「誰もが活躍するまち」はかぶっている部分があると思うが、SDGsは「No one will be left behind. (誰ひとり取り残さない)」で、まさに「inclusiveness (包括性)」がテーマで、先ほどの議論から出ている、高齢者やLGBTQなどみんなが取り残されていないということで、SDGs未来都市についてはそういった観点での統合性の評価が大事になっている。
- ・「若者が選ぶまち」というのを特筆した瞬間、もしかすると審査の時に視点が違うと言われかねない。このビジョンはSDGs未来都市に選ばれることを最優先にしているわけではないと思う。柱にSDGsをメインに入れられるという言う意向であるとは思



う。「若者が選ぶまち」というのを特筆するのであれば、そういう施策を売りにしているからそう書いているだけで、若者も含めた誰もが活躍するまちであるというナラティブで、だからこそ高齢者のケアも他と全然違うということをパッケージで説明して、LGBTQもやっています。だからインクルーシブなんですというストーリーの方が選ばれ方としてもよい。

- ・明石市は、まさにその若者の所をこのあいだの理由に入れていた。それが今の時代にうけるのだと思う。子育て世代などの移住が増えているのはなぜかということで、みんなをウェルカムできる体制を整えていて、その施策の一つとして、次世代の育成に公的支援をしっかりとしているというのが柱の一つであったと思う。
- ・「若者が選ぶまち」と「誰もが活躍するまち」がうまい形でナラティブと施策が繋がっていて、SDGsの理念でスツと言えらるようにはしておかないと後で足を引っ張ってしまう。

#### <事務局>

- ・先ほどいわれた、多世代の同居、世代間の連携というのは、若者だけでなく、高齢者だけでなく双方向連携してお互いに助け合うというのが、大事だと思っていて、ストーリーとして出したい。

#### <委員>

- ・本来は「誰もが活躍するまち」というだけでいいと思っていた。それでは総花的に見えるので、神戸ビジョンが特定分野にこの5年間力をいれるという意味合いにおいて、今回は「若者」に来てもらう、学んでもらう、定住してもらうというところに重きを置くという意味はあると思う。決めの問題である。
- ・「若者が選び、誰もが活躍するまち」と一つにする手もあるし「次世代が選び、誰もが活躍するまち」でもいいかもしれない。「若者が選ぶまち」で一回切ってしまうと、この政策のターゲットはこれからの人達のことを第一に考えているという印象を与える。それを意図しているのであれば問題ない。現状では並列にはとられない。

#### <委員>

- ・若者とすると、そのイメージは人によって違う。20代くらいのイメージで30代は「若者か？」となる。

#### <委員>

- ・私はこれを見て大学生がそのまま残るというのを第一義的に考えていると思った。世の中もそうだと思う。

### <委員>

- ・新卒で働きに行く人をターゲットにしているようである。

### <事務局>

- ・「誰もが活躍するまち」には国の「一億層活躍」のベースがあるが、結構、批判を受けていて、SDGsの観点でも「活躍する」と表記してよいかについては引っかかっている。先生方のご意見はいかがか。

### <委員>

- ・「誰もが選ぶまち」とすればよい。「活躍」するの趣旨は何歳になっても働かなくてはいけなくて、そもそも「活躍」ってどういう意味かというのは「一億総活躍」の議論があった。それを意識して「誰もが活躍するまち」を気にするのであればこのビジョンの中で選ぶにしても良いかもしれない。

### <委員>

- ・ご年配の方からの神戸の満足度は高いのか。アンケートはないかもしれないが。そこが満足されているのであれば、次は若者に選んでいただいて、あえて若者を呼ぶというのは有りかと思う。

### <事務局>

- ・神戸市はどんどん高齢化率は上がってきており、高齢者の方にはずっと住んでいただいている。

### <委員>

- ・「若者」という言葉に引っかかっているかもしれない。「次世代」の方がまだ良い気がする。若者が選ぶまちとすると「渋谷」かとなる。

### <事務局>

- ・前回のビジョンのテーマが、「若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち」だった。最初は「若者に選ばれるまち」だけで、人口が減少していくのでまさに次世代の人を呼び込まなければいけないということで、テーマとして尖がっていた。多方面からの批判も覚悟して打ち出したが、どんどん角が取れて施策も総花的になって、一億総活躍の話も出て「若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち」となった。
- ・今回のテーマ設定にあたっては、もっと主体性をもって「若者が選ぶまち」にしてくださいという市長の意向もあった。
- ・有識者と検討していく中で3つ目のテーマをいただいて「若者が選ぶまち+誰もが活

躍するまち+人と自然が奏でる創造のまち」になった。

#### <委員>

- ・「誰もが活躍するまち」というのは、地域コミュニティも含めて、障がい者の方のコミュニティや就職といったところの取組も重要なテーマなのではないか。「誰もが」ということでは「障がい者」も重要かと思う。

#### <事務局>

- ・多様性というところに神戸は行きつくのではないか、それを標榜するのであれば本気なのかと試されているように感じた。そこはきっちり議論を進めていきたい。

#### <委員>

- ・福祉や障がいなどは、そちらはそちらの部門で計画立てたものや、指標があると思うので、それを入れるかどうかということだと思う。
- ・⑦の4番「民間住宅や市営住宅の空き家の外国人留学生への提供」で、大学生などにも提供するという話が出てきたというのはここではなかったか。

#### <事務局>

- ・午前中に議論した中で、神戸市に一旦住んでもらうのが良いのではないかという話の中で、この外国人への提供という中に、日本の方を入れてはどうかというアイデアである。
- ・自宅から通われる学生よりも、下宿して住んでいる人の方が神戸に対する愛着が強いというご意見があった。
- ・大学も都心から離れたところにあるし、市営住宅もそういったところは空き家が多いので、その辺がマッチング可能なのではないかということ。

#### <委員>

- ・これは教育みたいなものは含まれているのか、例えばLGBTQとかだと、小さいころから普通だよねとなっていて、みんなの意識が保守的ではなくなっていれば受入れやすい気がする。一方で、おじいちゃん、おばあちゃんが難しく嫌悪感を持たれるようなことも多いような気がするので、全体への教育や意識の啓蒙は必要ではないかと思うがそういうことは可能か。

#### <事務局>

- ・そういったものはアンケートに入れてはどうかという話がある。例えば柱③の6番の「子どもたちが生き生きとした安全・安心で楽しい学校の構築」のKPIで「「自分に

はよいところがあると思う」児童生徒の割合」というのが上がっているが、こういうところに多様性を認めるというようなアンケートを取って、その割合を使ってみていくことができないかと考えている。そういったことも午前中にアイデアとしていただいた。

#### <委員>

- ・男女共同参画の審議会で、安全・安心、暮らしの項目で、今おっしゃったようなセクシュアルマイノリティへの理解の促進を明記したいという話をしていた。その方法として、教育のところで、総合学習の時間などで多様性尊重やLGBTQということ、小学生ぐらいから学ぶべきだという意見が多い。もう少し早い段階で学びたかったという話を聞く。
- ・ちなみに明石、芦屋、宝塚でも条例のできていないところでも、教育をどうすべきかというところで、仕組みを作ろうとしているので、神戸市の規模があるならばこういった仕組みがあればよい。

#### <委員>

- ・教育の話が出たので、神戸に残ってもらうという全体にかかる話だと思うが、今学校法人に派遣されていて思うのが、私学を中心に先生方の発想で、成功者は東京と教えている。言葉ではそうは言わないが、そんな子ども達のマインドが高校くらいまでに出来上がってきて、大人になって色んな現実がわかって引き戻すのは結構大変である。教育はLGBTも含めて、小さい段階から、キャリア教育として、地方のマインドセット自体を、東京とイコールであるという教え方をすべき。
- ・兵庫県の大学よりも、東京の大学へ行って東京の大企業に入った方が人生勝ち組みだよというようなことを先生たちが言えば影響は受ける。それは子どもたちのせいではないので、そのマインドを変えないといける人は出て行ってしまふ。その手当ては、教育委員会とかとLGBTも含めて教育の在り方に直結する話として、考える必要がある。